

## V. 長岡京市の観光資源

本市には、社寺や史跡をはじめ、千年以上の歴史を有する観光資源がありますが、花や紅葉等の観賞による誘客が中心であり、それぞれの由来や来歴、伝承等、より深く魅力を磨き上げていくことによる伸び代は、十分にあるものと考えられます。

観光に対するニーズが、「モノ消費」から「コト消費」へ、「物見遊山型」から趣味や体験、学習要素といった趣味嗜好に合わせた「テーマ型」へと変化する中で、本市の歴史は、これからの観光振興を進める上で宝の原石とも言えます。まちのお宝になる地域資源を再発見し、磨き上げていくことで、「ここにしかない宝」になります。

これまで観光資源化していなかったものも含め、主な地域資源について、その由来や来歴等、今後観光資源の磨き上げを行っていくにあたり、活用可能性のある情報等を整理します。

### 長岡天満宮

#### ● 菅原道真公が名残を惜しんだ「見返り天神」

長岡の地は、御祭神として祀っている菅原道真公が生前に在原業平と共に、詩歌管弦を楽しんだ地と伝わります。また、大宰府に左遷される時に立ち寄り、名残を惜しんだと言われ、「見返り天神」とも呼ばれています。



#### ● 樹齢 170 年のキリシマツツジと四季の花

境内東側に広がる八条ヶ池では、樹齢約 170 年のキリシマツツジが 4 月下旬に真紅の花を咲かせます。春は桜、初夏にはアヤマや紅蓮などの水生植物、秋は紅葉庭園「錦景苑」などが見ごろを迎え、多くの観光客が訪れます。また境内奥には、菅原道真公とゆかりの深い梅園が整備され、約 20 種、約 140 本が植えられており、毎年 3 月には梅花祭が開かれます。

#### ● 八条宮智仁親王と古今伝授

江戸時代に開田村が八条宮家の領地になると、寛永15年(1638)に八条宮智忠親王としかだによって「八条ヶ池」が整備されました。同じ頃に、初代智仁親王としひとが細川藤孝(幽斎)から「古今伝授」を受けた建物「古今伝授の間」を、智忠親王が洛中の自邸から境内に移築し、「開田御茶屋」として整備しました。八条ヶ池は天満宮の前庭として社観を高めると共に、開田村の灌漑用水としての役割を果たしました。

明治維新によって桂宮家(旧八条宮家)の庇護を失うと、「古今伝授の間」は、明治4年(1871)に桂宮家から細川家に下賜され、大正元年(1912)に水前寺成趣園(熊本市)に再建されました。境内には、平成24年(2012)に「古今伝授の間ゆかりの地」の石碑が建立され、細川家18代当主で、元内閣総理大臣の細川護熙氏による揮ごうが刻まれています。【関連項目:勝竜寺城公園】

#### ● 平安神宮を移築した社殿と近代和風建築群

長岡天満宮の本殿・祝詞舎・透塀は、昭和16年(1941)に桓武天皇とのゆかりから、平安神宮の社殿を移築されたものです。本殿は京都府有形文化財に、祝詞舎、透塀、手水舎等は長岡京市有形文化財に指定されています。境内地周辺には、長岡禅塾や明治14年(1881)創業の料亭・錦水亭などもあり、京都府教育委員会の「京都府の近代和風建築」でも取り上げられています。

## 光明寺

#### ● 京都屈指の紅葉の名所

西山浄土宗総本山。総門から続くゆるやかな石段の「女人坂」と、紅葉のトンネルとなる「もみじ参道」の両側にある数百本のもみじが全山を色鮮やかに染める風景は圧巻です。

JR東海の「そうだ京都、行こう。」キャンペーンで紹介され、京都屈指の紅葉の名所として全国から観光客が訪れます。



#### ● 念仏の産声を上げた立教開宗の地

法然上人が日本で最初に「南無阿弥陀仏」の念仏の産声を上げたという立教開宗の地。永禄6年(1563)には、<sup>おおぎまち</sup>正親町天皇から「浄土門根元之地」の綸旨を受けました。御影堂の裏には、法然上人が眠る御本廟があります。令和6年(2024)に、「その時『門』は開かれた」をキャッチコピーとし、立教開宗850年を迎えます。

#### ● 蓮生法師(熊谷次郎直実)の念仏三昧院

寺伝によると、建久9年(1198)、『平家物語』で知られる<sup>れんせい</sup>蓮生法師(熊谷次郎直実)が建てた「念仏三昧院」が光明寺の発祥と伝わります。寿永3年(1184)、源平合戦における一の谷の戦いで、熊谷次郎直実は自分の息子と同じ年頃の<sup>たいらのあつもり</sup>平敦盛を討ち取りました。武士の生き方に無常を感じ、積もる罪業を償い、極楽浄土の道を求めて法然上人を訪ね、仏門に入ったと伝わります。

## 柳谷観音楊谷寺

### ● 眼病平癒・あじさい・西山三山

大同元年(806)、清水寺を開山した延鎮僧都えんちんそうずにより創建。柳谷観音楊谷寺は、眼病平癒の祈願所として、平安時代より眼病に悩む人々に信仰されたと言います。長岡京市観光協会の観光地整備事業として、奥ノ院にいたる参道に「あじさいのみち」が整備され、現在 27 種約 5,000 株が植えられ、6 月にはあじさいの名所として多くの方が参拝しています。光明寺・善峯寺と共に「京都・西山三山」のひとつに数えられています。



### ● 「花手水」発祥の寺・体験プログラム

近年は、季節の花を手水鉢に浮かべる「花手水」発祥の寺として注目を集めています。また、毎月 17 日の縁日や、春の「新緑ウィーク」、初夏の「あじさいウィーク」、秋の「もみじウィーク」では、限定版の押し花朱印の授与や押し花朱印づくり、眼力ヨガ、数珠ブレスレットづくり、アロマワークショップなどの各種体験プログラム、重森美玲氏しげもりみれいが古都百庭に選んだ名勝庭園「浄土苑」を眼下に眺める上書院の限定公開を行っています。

### ● 弘法大師おこうずいの独鈷水

乙訓寺の別当を務めた弘法大師(空海)が参詣した際、お堂のそばの水で親猿が眼のつぶれた子猿の眼を洗っている姿を見て、17 日間の祈祷をしたところ子猿の眼が開きました。空海はこの水にさらに祈祷を施し、眼病に悩む人々のために霊水にしたという伝説があります。この霊水を「独鈷水」と呼びます。

## 乙訓寺

### ● 牡丹の寺

長谷寺の末寺。ボタンの寺としても有名で、4月中旬から下旬頃には、約 2,000 株の花が大輪の花を咲かせ、観賞に多くの観光客が訪れます。



### ● 乙訓最古の寺

京都最古とされる太秦の広隆寺(603年創建)と同時期の創建で、寺伝には推古天皇の勅願を受けた聖徳太子が開いたと伝わります。乙訓地域で現存する最古の寺です。本尊は33年に一度公開される秘仏合体大師像で、国指定重要文化財の毘沙門天立像があります。

### ● 長岡京と早良親王の幽閉

桓武天皇が平城京から長岡京に遷都した際に、京内七大寺の筆頭として増築したと伝わります。長岡京造営の中心人物であった藤原種継暗殺の疑いで桓武天皇の弟の早良親王が幽閉されました。

【関連項目：長岡京】

### ● 弘法大師(空海)と最澄

弘仁2年(811)に、弘法大師(空海)は、嵯峨天皇から任命されて、乙訓寺の別当(統括管理の僧官)を務めました。翌年には、伝教大師(最澄)が乙訓寺を訪れ、密教について法論を交わしています。境内には嵯峨天皇に献上したと伝わるミカンの木があります。

### ● 徳川綱吉・桂昌院の護持僧 隆光による再興

江戸時代になると、戦国の兵火によって衰微していた乙訓寺を五代将軍徳川綱吉が、乙訓寺を徳川家の祈祷寺とし、綱吉と生母である桂昌院が寄進をし、綱吉の護持僧隆光りゅうこうに命じて堂宇の再建を行いました。そのため、本堂の屋根には葵の紋が付いています。

## 勝龍寺

### ● 洛西観音霊場・ぼけ封じ観音・体験プログラム

京都洛西観音霊場第十四番札所。本尊は国指定重要文化財十一面観音です。びんずる尊者の像が安置され、病気の人が、この像をなでた手で自分の悪いところをさすると、病気が治ると信じられている他、「ぼけ封じ観音」も安置されています。近年は、切り絵の御朱印の授与や、切り絵体験、寺ヨガなどの体験プログラムを提供しています。



### ● 青龍寺から勝龍寺に改名

大同元年(806)に帰朝した弘法大師(空海)が唐の長安で修業した青龍寺の名をとって創建されました。嵯峨天皇の頃、勅願によって観音堂を始め九十九坊が建てられたと伝わります。応和2年(962)、大干ばつ大飢饉の年に住職<sup>せんかん</sup>千観上人の祈祷で雨が降り、龍神に勝ったという意味から「勝龍寺」と改名されました。

### ● 応仁・文明の乱から山崎の戦い

勝龍寺が史料で確認されるのは鎌倉時代中頃で、室町時代には守護の地域拠点として使われていました。応仁・文明の乱が始まると、勝龍寺に西軍方の畠山義就の勢力が入り、軍事拠点としました。その後、現在の勝竜寺城公園の場所に勝龍寺城が築かれ、その役割を終えましたが、天正10年(1582)の山崎の戦いで焼失しました。 【関連項目：勝竜寺城公園】

## 京都洛西観音霊場（洛西三十三所）

### ● 西国巡礼に代わる「西の岡三十三所」がルーツ

かつて「西岡」と呼ばれた桂川西地の旧乙訓郡は、都の西にあり、西方浄土を思い起こさせることもあってか、阿弥陀信仰や観音信仰が盛んでした。

江戸時代に、各村で講が組織され、西国三十三所巡礼が行われていましたが、西国巡礼には日数や費用がかかることもあり、「西の岡三十三所」が設けられ、地域内での巡礼が行われるようになりました。

明治以降、衰退しますが、昭和53年(1978)に大原野<sup>さいこうじ</sup>西迎寺の住職の提案から「洛西観音霊場(洛西三十三所)」として再興されました。

長岡京市には、光明寺・柳谷観音楊谷寺・乙訓寺・勝龍寺・長法寺など9カ所、京都市西京区は善峯寺や十輪寺、三鈷寺など18カ所、伏見区に1カ所、南区に4カ所、向日市に2ヶ所、大山崎町に1カ所の札所が属しています(番外を含めて札所数は35カ所)。

## 勝竜寺城公園（勝龍寺城跡）

### ● 勝龍寺城跡を公園として整備

勝竜寺城公園は、勝龍寺城跡にある歴史とやすらぎを感じられる公園です。「日本の歴史公園 100 選」にも選ばれています。平成4年(1992)に都市公園として整備され、毎年 11 月第 2 日曜には「長岡京ガラシャ祭」が開催されます。



大河ドラマ「麒麟がくる」の放送を控えた令和元年(2019)、展示室をリニューアルし、出土遺物と共にガラシャや藤孝・忠興親子、光秀等、勝龍寺城ゆかりの戦国時代の人物をパネルや映像で紹介しています。

### ● 近世城郭の原点/細川ガラシャ“お輿入れの城”/明智光秀“最期の城”

勝龍寺城は、元龜 2 年(1571)に織田信長の命を受け、細川藤孝(幽斎)が大規模な改修を行い、「瓦・石垣・天主」を備えた“近世城郭の原点”ともいえる城づくりを行いました。桂川西岸の「西岡」<sup>にしのおか</sup>の領主となった藤孝は、姓を改め、終生「長岡」姓を名乗りました。

その後、藤孝の嫡男忠興(三斎)の許に、信長の勧めによって明智光秀の娘 玉(細川ガラシャ)がお輿入れし、子宝に恵まれ、幸せな新婚時代を過ごしました。

本能寺の変後の山崎の戦いでは、明智光秀が拠点として使用し、敗れた光秀が最期の夜を過ごしました。光秀が坂本城に向けて脱出したと伝わる北門には、一部に当時の石垣と門の礎石が遺っています。

【関連項目：恵解山古墳】

### ● 「天主」と古今伝授

勝龍寺城に「天主」が存在したことが、新史料の発見によって明らかになりました。

これまで、天正2年(1574)に、勝龍寺城の「殿主」において、三条西実澄(実枝)から、細川藤孝に『古今和歌集』の秘伝を伝える「古今伝授」が行われたことがわかっていますが、「天主」と書かれた史料は発見されていませんでした。

しかし近年の調査によって、元龜 4 年(1573)のものと思われる連歌師里村紹巴の書状(橋本家文書)に、勝龍寺城の「天主」において、細川藤孝・里村紹巴の両吟興行が行われたことが記されており、織田信長の安土城天主以前に天主が成立していたことが明らかになりました。また、連歌興行や古今伝授が行われていたことから、文化的な空間として御殿機能を中心にした象徴的な重層建築だったと考えられています。

【関連項目：長岡天満宮 古今伝授の間】

## 乙訓古墳群と恵解山古墳公園

### ● 国史跡「乙訓古墳群」

乙訓古墳群とは、長岡京市・向日市・大山崎町・京都市西京区に所在する古墳時代の首長の古墳です。一つの地域に古墳時代の前期～末期まで継続して首長の古墳が築造された事例は全国的にも珍しく、13基の古墳が国史跡に指定されています。



### ● 公園として整備された国史跡「恵解山古墳」

乙訓古墳群のうち恵解山古墳は、古墳時代中期に造られた全長約 128m の乙訓地域最大の前方後円墳です。約 700 点の鉄製武器を納めた副葬品の埋納施設が見つかり、多量の鉄製武器が出土した例は全国的にも珍しく、昭和 56 年(1981)に国史跡に指定されました。出土遺物の中には、水鳥埴輪や家形埴輪等もあり、長岡京市埋蔵文化財調査センターに展示されています。

平成 26 年(2014)には、古墳が造られた 5 世紀前半の姿に復元し、公園としてオープンしました。平坦面には約 650 点の埴輪を並べ、斜面の一部に葺石を敷き詰め、墳頂部には原寸大の武器埋納施設の陶板を展示しています。

### ● 恵解山古墳と山崎の戦い

復元整備に伴う発掘調査で、着弾した火縄銃の玉や土器、磁器などの戦国時代の遺物のほか、後円部を曲輪状に改変した痕が見つかったことから、本能寺の変後の山崎の戦いで明智光秀が本陣を置いた可能性が指摘されています。隣接する大山崎町にも、本陣跡と考えられている「境野一号墳」があります。

【関連項目：勝竜寺城公園】

## 長岡京と中山修一・弟国宮

### ● 日本の政治・経済・文化の中心地として栄えた「長岡京」

長岡京は、延暦 3 年(784)11 月 11 日、桓武天皇の命によって奈良の平城京から遷された都です。政治の中心である長岡宮は向日市、経済の中心である市は長岡京市、表玄関口にあたる港(山崎津・淀津)は大山崎町・京都市伏見区にあり、日本の政治・経済・文化の中心地となりました。しかし、大洪水や桓武天皇の弟である早良親王の死、その怨霊などから、延暦 13 年(794)10 月 22 日に平安京へ都が遷されました。

【関連項目：乙訓寺】

### ● 「幻の都」の存在を証明した故 中山修一氏

長く文献上だけの「幻の都」といわれていた長岡京の存在を、発掘調査によって証明したのが、中山修一氏です。中山氏は、昭和29年(1954)に長岡京の発掘調査に着手し、翌年には朝堂院南門跡を発見、以後、小安殿、大極殿跡など重要な遺構を発掘し、長岡京中枢部の全容を明らかにしました。平成14年(2002)には、長岡京の歴史解明に一生を捧げ、多大な業績を残した中山氏の足跡と発掘調査研究の成果を一目で見られる施設として「中山修一記念館」が開館しました。

### ● 継体天皇の宮「弟国宮」

『日本書紀』によると、518年に、継体天皇によって筒城宮(京田辺市)から「弟国宮」が遷都されました。弟国宮の場所は確定していませんが、長岡京市北部が有力と考えられています。『古事記伝』には、「井乃内村、今里村の辺なり」と記されており、井ノ内では「弟国」と記された奈良時代の墨書土器の一部が出土しています。

## 西国街道と町家建築

### ● 西宮から東寺を結ぶ古代からつづく道

西国街道は、「山崎街道」ともいわれ、西宮から茨木、高槻を経て、山崎に入り長岡京市から京都東寺に至る街道です。古代は山陽道の一部として主要な幹線道路でした。

市内の西国街道沿いには、国登録有形文化財に指定されている「神足ふれあい町家(旧石田家住宅)」や「なかの邸(中野家住宅)」といった近世の町家を改修した店舗もあります。大阪や兵庫でも西国街道を歩く周遊コース・ガイドツアーが組まれています。



## 竹とたけのこ

### ● 千年以上の歴史を持つ乙訓の竹

京都盆地の西側に横たわる西山連峰の裾野には約3万 ha にわたって竹林が広がっています。西山は日本有数の竹の群生地であり、千年以上も前からその美しさが知られています。

本市を含む乙訓地域は、建築材や工芸の材料としての竹や、京料理で重宝される食用のたけのこ等、古くから竹を産出する地域です。



● 良質な土壌と伝統農法で育まれる最高品質の京たけのこ

西山連峰は、酸性の粘土質で、水はけ、日当たりが良く、たけのこの栽培に適しています。また、「京都式軟化栽培法」と呼ばれる伝統農法で年間を通して丁寧に手入れを行い、親竹の先を止め、敷藁・敷草・土入れを施すことで、「白子筍」と呼ばれる最高品質の筍を生産しています。収穫には、「ホリ」と呼ばれる独自の農具が使用されます。

延長5年(927)の「延喜式」には、天皇の箸用に乙訓の竹が納められた記録があるほか、寂照院には、曹洞宗・永平寺を開いた道元禅師が、宋から帰国する際に持ち帰った孟宗竹を植えたことを伝える「孟宗竹発祥の地」の碑があります。

<本市の竹と筍に関わる歴史>

年代	歴史
927年	この年完成した古代の法典『延喜式』に、朝廷に納める箸用の竹が「乙訓園」産出と記される。
11世紀初め	『枕草子』に「鞆岡(友岡)は笹の生いたるがおかしきなり」と記される。
1416年	伏見宮貞成親王の日記『看聞御記』(かんもんぎよき)に西岡の竹商人が登場する。
江戸時代初期	乙訓一帯で竹年貢が定められる。
1782年	桂宮家で、開田産のたけのこを題材に和歌が詠まれる。

**西山の豊かな水と酒造り**

● 人気コンテンツの「工場見学」「酒蔵めぐり」

本市は西山山系の豊富な地下水に恵まれ、サントリー<天然水のビール工場>京都が立地しており、工場見学に多くの人を訪れています。



また、天然の良水に恵まれていることを背景に、近隣の大阪府島本町にはサントリー山崎蒸溜所、京都市伏見区には多くの酒蔵が立地し、いずれも観光スポットとなっています。

● 企業や市民活動団体と取り組む西山の森林整備

西山の豊かな森林環境の保全や育成を推進するために、森林所有者、地域住民、企業、NPO、大学、行政などが連携して、平成17年(2005)6月に西山森林整備推進協議会が設立されました。企業や市民活動団体と連携をしながら森林整備や放置竹林整備、自然環境調査・植生調査を行うほか、森林ボランティア行事や子どもたちが西山の自然に触れる体験イベントや間伐材を活用した工作のワークショップなども行っています。SDGsの視点から、西山の豊かな自然をフィールドとした学習や体験など観光分野への活用の可能性を秘めています。